

村の人々のために ―山田方谷―

やまだほうこく

臥牛山の頂に建つ備中松山城。そのふもとを清らかに流れる高梁川。江戸時代の終わりごろ、この地に、山田方谷という人がいました。

山田方谷は、一八〇五年、備中松山藩西方村（現在の高梁市中井町西方）の農家で生まれまし
た。このころの農民は、朝から晩まで働きつめの生活を送っていました。子どもたちも朝から晩
まで手伝いをするのが当たり前でした。しかし、方谷の両親は方谷におさないころから教育を受
けさせました。方谷は新見藩にある塾に入門して学問にはげみました。

時は流れ、大人になった方谷は、備中松山藩の藩主・板倉勝静の
教育係として働くようになりました。

藩にくらす人々のために立派な藩主となるよう、方谷はそれま
で自分が学んできたことを勝静に一生懸命教えました。

方谷の人柄を見こんだ勝静は、火の車だった藩の財政を立て直
す大切な役目を方谷にまかせようと考えました。ところが、方谷
は、

「わたしは武士ではなく、ただの学者ですから。」
と、勝静の申し出をことわり続けました。



山田方谷像 高梁方谷会蔵



「武士でない山田方谷に、藩の大切な役目をまかせるのは反対だ。」

「武士がやってよくならんことを、農家の出の学者がどうにかできるわけがない。」

ほとんどの武士が、方谷のことをこころよく思っではいませんでした。

（こんな中で私が改革をやったとしても、ついて来てくれる者はだれもいないだろう。うまくいくはずがない…。）

そんな思いが方谷のおねの中に生まれていました。道がこわれても修理はされず、田畑もあれていきました。やがて藩の財政はますますきびしくなり、方谷は勝静に再びよばれました。

「今こそ、そなたの学問をこの備中松山藩のために生かすときが来たのだ。力を貸してくれぬか。」
真っ直ぐに方谷を見つめる勝静の目は本気でした。

勝静に何度もたのみこまれ、そのたびにだまっとうつむく方谷のまぶたのうらには、父母、村の人々の苦しい生活の様子がまざまざとよみがえってくるのでした。

「これでは、何にも収穫ができません。」

「けれど、年貢の取り立ては毎年やってくる。」

「用水路さえ元通りに直れば、何とかなるのだが。」

村の人たちのことを思うと、方谷のおねははりさけそうになるのです。

（私が今まで、学問をしてきたのは、一体何のためだったのか。自分の満足のためか…。いや、



備中松山城（高梁市）



ちがう。村の人々の幸せなくらしを実現するためではなかったのか。たとえだれも私の後について来てくれないとしても、村の人々のため、このままにいるわけにはいかない…。」

方谷は、藩の人々のために自分が率先して改革を行うことを決意したのでした。

それからの方谷は、周りの武士たちの反発にも負けず、改革をどんどん進めていきました。大坂にある藩の蔵屋敷を廃止しました。そのおかげで、蔵屋敷にかかるお金が節約できました。

ある日、村の老いた農民が言いました。

「固い土をくわで耕すのは大変じゃ。」

その話を聞いた方谷は、これまでのくわに改良を加えて「備中ぐわ」をつくり出しました。その後、この「備中ぐわ」は日本全国で使われるようになりました。このくわは村の人々に、仕事のしやすさを生み出しました。また武士の家の庭に植えていた柚子を使ったお菓子「ゆべし」は備中松山藩の名物になり、藩内でさかんに作られました。そして、これらの生産物を江戸に売りに行くための道の整備も行いました。こうして、少しずつ村の人々の生活は豊かになっていったのです。

さらに、方谷は年貢米を納める「郷倉」を設けました。長雨などで米のできがひどく悪いとき

には郷倉ごうぐらを開き、村の人々に米を分けあたえました。そのおかげで、備中松山藩びっちゅうまつやまはんではただの一人も餓死者がししやを出さことなく、人々はみな安心して生活することができたのです。

「郷倉のおかげじゃ。方谷様は神様のようじゃ。」ほうこく

備中松山藩の人たちは、口々にそう言って畑仕事に精せいを出しました。

農民たちが笑顔で働くその様子を、方谷はじっと見つめています。

※大坂…現在の大坂

※郷倉…藩内はんうちの要地ようち四十力所ほどを選んで建てられ、凶作時きようさくじの備蓄用びあくようとしても使われた。民心安定みんしんあんていを図る取組である。



高梁市巨瀬町に残る郷倉

1 主題名 郷土のために

2 主題設定の理由

(1) 内容項目について

中心とする内容項目は、C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。」である。自分が生まれ育った郷土は、その後の人生を送る上での大きな精神的な支えとなるものである。様々な体験や主体的な関わりを通して、先人の努力を知り、国や郷土をよりよくしていこうとする態度を育んでいきたい。

(2) 児童の実態について

この時期の児童は、我が国の産業や歴史などの学習を通して、産業の様子や発展に尽くした先人の業績や文化遺産に目が向けられるようになる。しかし、それらが先人のどんな思いでつくられたものであるかにまでは、目が向いていない。このことから、自分の郷土で受け継がれている祭りなどの伝統や文化を大切に思い、更に発展させていこうとする態度を育てるとともに、先人がこれまで大切に守ってきた伝統や文化や郷土を受け継いで発展させていく役割が自分にもあることに気づき、努力していこうとする気持ちを育てたい。

(3) 教材について

高梁市に生まれた山田方谷。近年、財政立て直しの業績が様々なメディアを通して知られることが多くなってきた。学者でありながら、財政を立て直した方谷の真の願いは、郷土備中松山藩に暮らす民が豊かになることであつた。しかし、現実には武士の反発に合うなど苦しい状況にも陥っている。そのようなときに、民への慈しみがあつたからこそ苦しい状況でも立ち向かっていくことができたことや、人間らしい葛藤があつたことに気付かせたい。

◇板書例

◇郷土と自分について考えたこと ◇郷土の人々を幸せにしたいという気持ちが大切だな。	写真 (郷倉) ・あのととき逃げ出さないでよかった。 ・民が幸せにくらしてくれることが何よりうれしい。	じつと見つめているとき	場面絵 ・自分にそんな大きな事ができるのか。 ・せっかくの学問を生かすチャンスが来た。 ・苦しんでいる藩の人々のために今、自分がやらなくては。逃げてはいけない。	一人で悩んでいるとき	めあて 方谷を支えた気持ちは何だったのか考えよう。	写真 (山田方谷) 村の人々のために ―山田方谷―
--	--	-------------	---	------------	------------------------------	---------------------------------

◇参考

山田方谷(1805～1877年)。備中国松山藩領阿賀郡西方村(現在の高梁市中井町西方)に生まれる。幼いころは神童と呼ばれた。成人した後、備中松山藩の藩校での教育を任されるようになる。幕末、藩主板倉勝静に仕え、藩民のための改革を成し遂げる。藩の農民から人望が厚かった。

3 ねらい

郷土のために尽くした人の気持ちについて考える中で、自分の郷土や郷土に住む人々の幸せを考える気持ちが大切であることに気づき、先人から受け継がれてきた文化や郷土を大切にしようとする心情を育てる。

4 展開

○は基本発問 ◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1 山田方谷について話し合い、めあてをつかむ。	○ 「山田方谷」についてどんなことを知っていますか。 ・藩のために借金を返して10万両ためた人。 ・「備中ぐわ」や「ゆべし」を作った人。 方谷を支えた気持ちは何だったのか考えよう。	・「備中ぐわ」「ゆべし」の実物や写真を紹介し興味関心を高める。 ・これらは方谷が工夫して作ったものであることを伝え、方谷を支えた気持ちは何だったのか考えようという課題意識へと導くようにする。
2 「村の人々のためにー山田方谷ー」を読んで話し合う。	○ 困っている民の様子を見たり聞いたりしたときの方谷はどんな気持ちだったでしょう。 ・こんなひどい状況、早くどうにかしなくては。 ・武士でない自分にどうにかできるわけがない。 ◎ 勝静に頼み込まれ一人悩む方谷は、どんなことを考えていたでしょう。 ・自分にそんな大きな事ができるのか。 ・せっかくの学問を生かすチャンスだ。 ・苦しんでいる藩の人々のために、今、自分がやらなくては。逃げてはいけない。 ・どうしても藩の人々の暮らしを楽にしたい。 ○ 笑顔で働く民の姿をじっと見つめる方谷はどんなことを思っていたでしょう。 ・あのとき逃げ出さないでよかった。 ・民が幸せに暮らしてくれることがうれしい。 自分の郷土や、郷土の人々の幸せを常に考える気持ちが大切だな。	・民の暮らしぶりを知り、自分にできることはないかと胸を痛める方谷の気持ちに共感できるようにする。 ・思い悩む方谷の気持ちをワークシートに書くことで、多面的に考えられるようにする。 ・「何のために学問をしてきたのか。」と問い、葛藤しながらも民の暮らしを豊かにしたいと気持ちを奮い立たせる方谷の気持ちに気付くことができるようにする。 ・笑顔で働く民の姿を見つめている方谷の気持ちを問うことで、民のために改革を進めてきた方谷の満足感や民のことを思って行動することの尊さに気付くことができるようにする。
3 今までの自分の郷土への関わりを振り返る。	○ 今までの自分は郷土を思う気持ちがどれくらいあったかを振り返ってみましょう。 ・今までは、それほど郷土のことを考えて行動していなかった。 ・自分の地域に伝わる踊りや祭りなどを大切に受け継いでいきたい。	・「郷土」について感じたことやこれまでの自分の行動を振り返ってワークシートに書くことで、先人から受け継がれてきた文化や郷土を大切にしようとする意欲を高める。
4 教師の話聞く。	○ 郷土のために尽くした人物を紹介します。 これまで受け継がれてきた郷土の文化をこれからも大切にしていきたいな。	・教師の説話により、郷土や文化を大切に受け継ごうとする意欲を高める。
評価の観点	・郷土の人々の幸せを考える気持ちが大切だと気付くことができたか。 ・先人から受け継いできた伝統や文化を大切にしようとする意欲を高めることができたか。	

5 他教科との関連

総合的な学習の時間に郷土のために尽くした人物について調べたり伝統や文化を受け継いでいる方の話を聞いたりして思いに直接触れることで、郷土や文化を大切にしようとする心情や態度をさらに育む。

村の人々のために — 山田方谷 —

5年（ ）組（ ）

○勝静^{かつきよ}にたのみこまれ一人なやむ方谷は、どんなことを考えていた
のでしょうか。



○今まで夢^{ゆめ}や目標に向かって強い気持ちで取り組んできたことを書き
ましょう。

--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--